

新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業の概要

事業名	一般国道432号 新開拡幅	事業区分	一般国道	事業主体	広島県
起終点	自：広島県竹原市竹原町 至：広島県竹原市下野町	延長	1.0 km		
<p>事業概要</p> <p>一般国道432号は、広島県竹原市を起点とし、島根県松江市に至る延長約21.6kmの幹線道路である。新開拡幅は、竹原市市街地において4車線整備を行い、渋滞の解消及び歩行空間の確保による安全性の向上を目指し行なうものである。</p> <p>竹原市中心部の新開土地区画整理事業区域内を通過することにより、開発区域の円滑な発展と市拠点ゾーンの発展・交通環境の改善に重要な役割を果たす路線として必要な事業である。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <p>国道432号の現況道路は、現況交通量が16,500台/日（H17センサス）余りにも関わらず、2車線道路であり、歩道も狭く、一部片側歩道の構造となっている。さらに、広島空港・山陽自動車道河内IC・国道2号との連絡路としての重要な機能を持つため、利便性・安全性の向上を目的としている。また、竹原市の新開土地区画整理事業に関し、連携を図ることで計画的かつ効果的な事業が見込める。</p> <p>全体事業費：17億円 計画交通量：13,600～15,600台/日</p>					
<p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

竹原市をはじめとする8市1町の首長で構成される国道432号改良促進期成同盟会などから早期整備に向けた要望を受けている。

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている。
手続きの完了：平成7年 都市計画決定済み

事業評価結果

費用対便益	B/C	3.3	総費用：13億円 （事業費：12億円 維持管理費：1億円）	総便益：43億円 （走行時間短縮便益：37億円 走行費用減少便益：1億円 交通事故減少便益：5億円）	基準年：平成18年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=3.6 (交通量 110%)	B/C=3.0 (交通量 90%)		
		事業費変動	B/C=2.9 (事業費 110%)	B/C=3.6 (事業費 90%)		
		事業期間変動	B/C=3.3 (事業期間 +2年)	B/C=3.1 (事業期間 -2年)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策		渋滞区間を解消する。 【渋滞損失時間の改善】16.7万人時間/年 8.5万人時間/年 【1kmあたり（台kmあたり）渋滞損失時間】 整備前79、470時間/km 整備後40、360時間/km 39、110時間/km の改善		
		事故対策		車両及び歩行者の安全な通行を確保する事業である。 【死傷事故率】約224.6件/億台キロ（H12～H16）（死傷事故率比（県内平均比）2.01） 広島県平均：約112.0件/億台キロ（H16年） 全国平均：約120.0件/億台キロ（H16年）		
	歩行空間		現況は1.5m～2.0mしかないが、4.0mの歩道を配置することにより円滑な歩行空間が確保される。			
	社会全体への影響	住民生活	-	注目すべき影響はない。		
		地域経済		新開土地区画整理事業との相乗効果が期待され、定住人口促進・商業施設進出促進の効果が寄与する。		
		災害		第一次緊急輸送路としての指定された路線のため、災害時の連絡路・迂回路としての機能が向上する。		
環境			CO2排出量の削減（削減量：260t/年）。			
地域社会		広島空港・山陽道河内IC・国道2号への連絡、竹原港への連絡時間が短縮されるため、地域交通全体の利便性向上に繋がる。				
事業実施環境	-	注目すべき影響はない。				

採択の理由

費用便益比が3.3と便益が上回っていること。また、都市計画決定済みであり、円滑な事業執行の環境が整っていることから事業採択の前提条件が確認できる。

また、当該事業箇所の拡幅に伴う渋滞の解消及び歩行空間の確保による安全性の向上が図れるだけでなく、竹原市は計画的な事業の推進が見込めるなど、事業実施による改善は大きく、事業実施の効果は高いと判断される。以上により、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。